



校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

この2学期、やり切りたいにと②

授業における「居場所」づくりを日々実践する。

<授業における「居場所」とは？>

- 1 「分かった」「できた」が実感できている。
- 2 お互いに尊敬し合っている。
- 3 自然にお互いに助け合っている。 } 「絆」が実感できている

<「分かった」「できた」を実感させるための取組の重点とは？(4つの重点)>

- 1 導入で、児童生徒の「なぜ?なぜ?」を引き出し、このことに基づく学習課題を設定する。
- 2 「個別最適な学び」(いわゆる「個に合った・・・」)と「協働的な学び」(子ども同士の関わりの中で・・・)の場を設定し、相互作用により、学びを深める。
- 3 必要感のある「対話」、効果のある「ICT活用」の場を設定する。
- 4 「発展的振り返り」の書きぶりから、「分かった」「できた」授業の達成状況を見取る。また、「発展的振り返り」により、授業と家庭学習を線でつなぐ。
(※特に「3」等は、1単位時間に限定せず、1単元を通しての捉えでも構わない。)

<「絆」を実感させるための取組の重点とは？>

- 1 4つの場面を想定する。
(1) 一斉授業で (2) 協働学習の場で (3) 個別学習の場で (4) 自己内対話の場で
- 2 それぞれの場面で、「生徒指導の三機能」(自己決定の場・自己存在感・共感的な人間関係)のうち、満たすべき機能を定め、それを満たし得る手立てを工夫する。

生活における「居場所」づくりに取り組む。

<生活における「居場所」とは？>

- 1 安心して過ごせる場・時間・空間。
- 2 自分なりに「伸びる」目的をもって過ごせる場・時間・空間。

<対応すべき3つの実態に応じた「居場所」づくり>

- 1 登校していない実態に応じた居場所づくり
○本音で話ができる人間関係の構築 ○本人の興味・関心に沿った地道な取組 等
- 2 登校しているが、教室にいけない実態に応じた居場所づくり
○理解者として存在 ○「楽しい」「おもしろい」「もってやってみたい」を引き出す場 等
- 3 教室にはいるが、教室が居場所とは感じていない実態に応じた居場所づくり
○「子ども同士が絆を感じる場面」を教師が黒子に徹しながら仕掛ける 等

(*先進校への視察をもとにさらに具体化していきましょう。)